

## 授業改善等に関する報告書（2019年度前期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2019（前期）日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
小説と戯曲の世界	福井 拓也	授業が後半へと進むにつれ、読みやすい作品が増えたとの感想が多くみられました。それは戯曲の読む力が身についたことの証左だと思います。この授業が今後の読書生活の一助になれば幸いです。
ことばと生活	大塚 みさ	アンケートへのご回答ありがとうございました。 予習復習の平均時間0.98hからは、レポートのほか毎回の事前・事後学修課題への熱心な取り組みの様子が伝わってきました。 「自己成長の実感」についての平均値はと大変高く、それに関する自由記述欄にも授業テーマの具体例を挙げて理解が深まったことや、日常の言語生活に生かしていることなどが書かれており、一人ひとりの意欲的な学びの成果を実感しました。また論理的思考力の習得を挙げている学生も複数おり、4ヶ月の成長ぶりに感心しました。 毎回の授業や事前・事後学修にはresponを導入しましたが、それを通して授業に意欲的に参加できたことや、他の受講生の意見から自分の意見を見直すことで協働力の習得や、深い理解につながったことなどを挙げてくれている意見もあり、うれしく思いました。 今後も身の回りのことばに注意を傾けつつ、さらに関心を深めてほしいと願っています。
近現代の文学を読む	福井 拓也	試験にかみられたコメントに、比喩表現の多さを理由として、漱石の「文鳥」は絵本にはなるが映画にはならないというものがありました。また「文鳥」を扱う機会があれば、いばって紹介したい見解でした。
ビジネスリテラシー	鹿島 千穂	「授業を通して自身の成長を実感できた」という学生が9割近くいたことを嬉しく思います。一方で、予習復習時間にバラつきがあることが気になりました。特に毎週の新聞課題は、完璧な形で提出していた人と、手を抜いていることが一目瞭然の人がいたと感じます。 授業の集大成として受検したビジネス能力検定3級に、高得点で合格した学生が多数いました。この結果に自信をもって、2級にもチャレンジしてほしいと思います。
情報とマスコミュニケーション	大倉 恭輔	シラバスに記した内容はカバーしているはずですが、ただし、授業時に話したとおり、「基礎の基礎」的な部分を補足する必要を感じたので、個々の授業内容に入るまでが長くなったとは思いますが、その点、想像していたような授業進行にならなかったかもしれませんが、「基礎の基礎」的な部分を無視して授業をおこなっても、あまり意味がないと思い、そのような進行としました。 理解してもらえたらうれしいのですが、また、学生への質問が多いという指摘がありましたが、学生の理解度ををはかる意味もあるということだけ理解してください。
ビジネスリテラシー	鹿島 千穂	「授業を通して自身の成長を実感できた」という学生が9割近くいたことを嬉しく思います。一方で、予習復習時間にバラつきがあることが気になりました。特に毎週の新聞課題は、完璧な形で提出していた人と、手を抜いていることが一目瞭然の人がいたと感じます。 授業の集大成として受検したビジネス能力検定3級に、高得点で合格した学生が多数いました。この結果に自信をもって、2級にもチャレンジしてほしいと思います。
文学とコミュニケーション	高瀬 真理子	できるだけ、多くの作品からコミュニケーションを学んでほしいという思いと、丁寧に説明して、確実に理解してほしいという思いのせめぎ合いがあります。 シラバスの到達目標については、平均値のようですが、一作品を削って、その分、他の作品を丁寧に理解してもらうようにしました。 教員は書画カメラのそばを離れられないのに、学生たちが遠くに座る人が多いので、座席指定などをすれば、もっと聞こえるようになるのかもしれませんが、成績も、授業をしっかり聴いた人とそうでない人の差が、学年にかかわらず歴然と出てしまいました。
古典文学を読む	佐藤 辰雄	①受講生の内1年生が15%を占めることもあってか、欠席数は他科目に比べて明らかに低目だった。 ②日本の古典で一番身近に親しまれている『小倉百人一首』を取り上げたことに起因するのだろう、Q3履修動機の71%が作品への興味からであった。 学生は二回の発表にも果敢に取り組んだ。Q13更に学びたいやQ15授業満足度が高いのも興味を持つ作品に半年間接した喜びを示すものであろう。 ③しかし、発表する学生の質は明確に二分した。教員の見本に従い奥深くしっかりと発表できる学生一多量の依拠文献を調べる、先行説を参看しながら自説を明示する一も少なからずいる一方、先行文献の引写しに甘んずる学生が1・2年生を問わず半数以上に及んだ。 Q14自己採点3.29が、教員評価の3.34と近似したのは偶然か。
情報リテラシー入門	板倉 文彦	「Ⅲ.全体について」の数値が平均値と比較して低い傾向でした。本科目は情報リテラシーについて幅広く学ぶ科目ですが、専門的な内容を学生の皆さんに十分説明しきれていなかったのではないかと反省しています。今後は、より理解を深められるよう講義内容を見直していきたいと思えます。
印刷製本知識	居郷 英司	アンケート結果からみて、出席率が良いにもかかわらず、授業内容の理解が十分とは言えないようである。これは予習復習時間の短さと授業スピードに起因すると思われる。授業内容が多岐にわたるため、ある程度の速さは必要になるので、自宅での復習を兼ねたレポート等を増やすことで理解を深める助けとしたい。

[2019（前期）日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
情報サービス論	西脇 智子	この授業では、健康・医療の情報を読み解き、活用できるようになることを目指しました。成果としての履修生のプレゼンテーションには感服しました。授業のわかりやすさ・満足度は概ね良好で大変励みになりました。理解度をさらに上げることができるよう、教材等に工夫を加えていきたいと思えます。
日本語を教える a	久池井 紀子	今期の学生は、積極的に取り組んだ人とそうでなかった人の差が大きかったようです。 日本語教育は、カバーする範囲が広いので浅く薄くなりがちなので、興味を持つ人とそうでない人との差が出やすいのかもしれませんが、今後、さらに授業の工夫をして興味を引き出すのが私自身の今後の課題です。
原稿指定入門	居郷 英司	アンケート結果を見ると、授業内容への理解が不十分だった傾向があるようである。全員への説明のあと、個々の作業に入るため、分からなくても質問を躊躇してしまう人はそのままになってしまい、また予習復習が十分されないことがさらに拍車をかけるようである。全体への説明と個々への説明のバランスをとるよう心がけたい。
日本語学入門 a	大塚 みさ	アンケートへのご回答ありがとうございました。 予習復習の平均時間は0.88hと想定よりもやや短めでしたが、毎回の課題提出状況や定期試験平均点は良好でしたので、効率よく勉強できたのだと思います。自由記述欄にも、「課題」「予習復習」「復習テスト準備」にしっかり取り組んだ成果が理解につながったという意見が多く見られ、感心しました。 概説系の講義科目ゆえ、教員が一方的に話す形式に陥らないよう留意して授業を進めました。（昨年度からの課題でした。）そのため、発言や前に出て答えをボードに書いてもらう機会を多く設けましたが、みなさんが意欲的に参加してくれた成果が「双方向性」の数値に表れており、うれしく思いました。 独自設問（自由記述）の「日本語の特色や魅力として誇りに思うこと」については具体的な回答が大変多く、学びの成果を実感しました。 後期の「日本語学入門b」で、さらに日本語への理解と関心を深めてください。
校正理論 I	境田 稔信	常用漢字を正確に読み書きし、約物やルビの組方ルールの基本を理解できるようになるのが目標である。 全体的に理解度は例年より良好だが、一部には欠席や予習・復習を怠る傾向も見られた。 さらに予習・復習の自主性を促し、フォローするための工夫を凝らしたい。
情報学への招待	板倉 文彦	学生の皆さんからいただいた評価で、特に気になったところは「双方向授業等の工夫がされていたか」という質問項目です。本科目は理論系の科目のため、なかなか学生の皆さんとやり取りするというシチュエーションを作ることが出来ませんでした。今後は、理論系の科目においても学生の皆さんと必要に応じてディスカッション等取り入れることを検討していきたいと思えます。
日本語の発見	鹿島 千穂	「授業を通して自身の成長を実感できた」という学生が9割以上いたことを嬉しく思います。また、「この科目（系・分野）をさらに専門的に学びたいと思った」という学生も多く、履修者それぞれが自分なりに日本語の新たな一面を発見し、日本語に対する知的好奇心が刺激されたとしたら、授業の目的を達成することができたのではないかと思います。 テスト以外に課したレポート提出は2回でしたが、予習復習に費やした時間が1時間未満の学生が目立ったので、もう少し課題を出すべきだったかもしれません。
校正技術 I-a	境田 稔信	実習課題を繰り返して、校正の基本となる縦組の原稿照合ができるようになるのが目標である。 全体的に習熟度は例年より良好だが、欠席したり予習・復習を怠ったりすると向上しない。 予習・復習が足りない学生の自主性を促し、フォローするための工夫を凝らしたい。
ノンバーバルコミュニケーション論	西脇 智子	この授業では、見た目や伝える・伝わる・伝え合う非言語コミュニケーションとはなにかを探りました。記号学とコミュニケーション学の幅広い教材を用いて、学びの糸口を提供しました。授業理解度・説明のわかりやすさ・満足度は概ね良好で大変励みになりました。よりよい授業を目指してブラッシュアップしていきたいと思えます。
大衆文化論	宮木 孝子	大衆文化論は、児童文化が大衆文化にどのように影響を与え、現在に至るかを、辿る内容も系ごと講じたものの、どのくらい理解されたか、心配でした。しかし、アンケート回答率も44%と高く、総体的には、良い評価を頂けて、ほっとしています。欲を言えば、ディスカッションもしたかったのですが、時間的なこともあり出来ませんでした。 授業を前のめりになって聴いていた皆さんの顔、私語の問題がある中、本当に多くの学生の皆さんが、頑張り抜いてくれたことに感謝です。試験の成績は、決して甘くないので、こんなはずではという方もあると思います。ただ、勝手な判断ではなく、試験レポートを書く上での注意事項を考えて下されば、納得が行くことと思えます。もし、疑問があれば、ぜひ、後期は水曜出講するので、聞きに講師室までおいで下さい。遠慮せずお願いします。それでは、後期も皆さん、それぞれの目標に向かってお励み下さいませ。

[2019（前期）日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
日本文学の歴史 c 近代	宮木 孝子	今回は、授業中にアンケートを採れず、心配でしたが、半数の方が回答、感謝です。熱心な皆さんだからか、パワーポイントの使用や、資料が効果的だったとの評価は、嬉しかったです。なぜなら、前期の日本文学史は、明治から昭和初期まで、学生の皆さんには遠く隔たりを感じる時代です。その場合、時代をどう、伝えるか。そして代表作品は何をどう書いたか、どういう必然があったか、を説明する方法は難しいので。文学史を短大で学ぶ意義は、一般常識の基礎というだけでなく、社会と人間がどう繋がっているかを考え、判断する力を養う、文学入門の意味があります。アンケート回答の半数が（実際の受講者の1/4）この授業を履修し、この分野への関心をもった、学んでよかったと回答してくれたことは、今後の励みと致します。皆さんが良い作品と出会い、より成長されることを願っています。試験結果について、質問のある方は、遠慮せずに、後期水曜、講師室に来て下さい。待っています。
ビジネストーク入門	鹿島 千穂	「ビジネストーク入門」はコミュニケーションに関する理論を学び、実践を繰り返しながら「話し言葉」をブラッシュアップしていく授業です。このような授業を初めて受けた学生も多く、最初は戸惑いや人前で話す恥ずかしさもあったかと思いますが、徐々にグループワークにも慣れ、楽しんでいる様子が伝わってきました。「自分の成長が実感できた」という学生が多いことを嬉しく思います。しかし、1回90分の授業にたくさんの要素が詰まっているため、一度休んでしまうとその穴を埋めるのが大変です。このクラスは金曜1限だったせいか、欠席する人が少々目立ちました。やむを得ず欠席する場合は、配布物を自分からもらいに行き、その際に授業内容を教員に尋ねるなどする意欲も大切です。学んだことは実践しないと身につかないものですが、「話す」という行為はほとんどの人が毎日行っていること。授業で学んだことを頭の隅に置きながら、日々の生活で「話す力」を伸ばす努力を続けてください。
日本文学の歴史 a 古代	佐藤 辰雄	古代 ①Q1欠席回数が1.33に及ぶのは、1年生が3人だけで他の30人が就活中の2年生という、学年構成に依るところ大であろう。免罪符の如く「会社訪問等の申出書」が数多く提出された。これがあれば出席点には勿論ならないが、1ポイントの評価を加えると授業の初めに説明しておいた。 ②高評価を得たのは主にQ5シラバスとの一致やQ6授業の進み具合のように、むしろ外形的評価である点、及びQ13更に学びたいやQ15授業満足度という内質の評価がともに平均より低かった点は、大いに考えさせられる結果であった。現代とは感覚・通念が違い過ぎることもあって例年評価が低くなりがちなのだが、解きほぐすように丁寧に解説しているつもりでも今年も改善が見られなかったのは残念である。 ③Q14自己採点が3.66と比較的高かったが、教員からの評価は3.44だった。今回もコース毎に差が大きかった。
ビジネストーク入門	鹿島 千穂	受講生の意欲が非常に高く、授業への出席率の高さや予習復習時間の長さにもあらわれています。授業中に出した課題もしっかりこなし、十分に準備をしてきた上で授業に臨んでくれるので、私も教えていて楽しかったです。最初はグループワークや人前での発表に戸惑いや恥ずかしさがあったかと思いますが、少人数だったためすぐに打ち解けることができ、適度な緊張感とリラックスした雰囲気のおかげで、それぞれの「話す力」を伸ばすことができました。受講生の全員が「自分の成長が実感できた」「この科目（系・分野）をさらに専門的に学びたいと思った」と回答してくれたことに頼もしさを感じます。授業を通して身につけた「話す力」が、今後のみなさんの人生におけるさまざまなシーンで生かされることを期待しています。
卒業研究 a	高瀬 真理子	今年度のクラスは、自分たちのテーマを主体的に捉え、自主的に共同して活動することができていると思われまます。従って、満足度も高く、自己の成長も実感できているようです。この調子で、後期へ向けてステップアップしてほしいと思います。
ビジネスマネジメント	板倉 文彦	概ね区分平均程度か上回る結果となりました。この科目は毎週課題提出を課していましたが、それでもこの結果となったのは、学生の皆さんが講義内容に興味を持って積極的に取り組んでくれた成果だと思います。ただ、欠席回数が平均値を大きく超えたことは今後の課題と認識しています。
校正理論Ⅱ	境田 稔信	常用漢字や編集・校正の知識を増やし、校正実習に活かすとともに校正技能検定の学科問題に対応できるようになるのが目標である。意欲的に取り組む姿勢が見られ、全体的に理解度は向上している。校正技能検定の受験者は少なかったが、受験する自信が持てたようだ。
校正技術Ⅱ	境田 稔信	縦組・横組の原稿照合や素読み校正の実習課題を繰り返し、対応力を身につけて校正技能検定の実技問題をできるようにするのが目標である。全体的に習熟度の向上があり、校正技能検定にも自信をもって臨めるようになった。
卒業研究 a	板倉 文彦	ゼミでは課題・グループワーク・発表を課してきましたが、ゼミ生の皆さんはきちんと取り組んでくれました。その真面目さも評価結果に影響しているものと思います。しかし、欠席回数が平均値を上回ってしまいました。前期は就職活動での欠席がほとんどでしたのでやむを得ないところもありますが、後期はそういった事情も減ると思われるため、皆さんの出席にも気を配っていきたいと思います。

[2019 (前期) 日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒業研究 a	大塚 みさ	<p>アンケートへのご回答ありがとうございました。            予習復習の平均時間は1.27hと、みなさんが熱心に取り組んだ様子が伝わってきました。            「自己成長の実感」についての平均値がこの科目のアンケート項目の中で最も高い数値でした。何よりみなさんが意欲的に取り組んだ成果に違いありません。「具体的に成長を実感したこと」については課題解決力を挙げる学生が多く、それを実感できていることは大変素晴らしいことだと感じました。            アンケートの質問項目にはありませんが、協同学習の成果も大きかったはずですが、後期は引き続き「卒業研究b」で各自がレポートを仕上げていくことになりませんが、互いに支え合い、刺激し合って学びを進めていってほしいと願っています。</p>
卒業研究 a	佐藤 辰雄	<p>①Q2予復習時間が1.00hとやや多いのは、各種発表のことを考えると正直な学習時間認識と認められる。アクティブ・ラーニングの真骨頂だった。            ②前述したQ14自己採点評価が2.5と今までにないほど低いのは己を正しく見ているか自信喪失気味か判然としませんが、最も重要視した『方丈記』の発表における出来不出来の差が従来にないほど大きく教員からの評価も3.33と異例の低さだった。            後期の卒業研究1b・卒業研究レポートの作成に向けて、学術的飛躍を果たしてほしい教員としても丁寧に指導するつもりである。</p>
卒業研究 a	鹿島 千穂	<p>まず最初に、回答者数が2名であることに驚いています。授業の最終回に、アンケートに回答するよう指示したと思うのですが、指示が徹底していなかったり、私の記憶違いでしたら申し訳ないと感じています。アンケートを後期の授業内容にしっかりと反映させるために、より多くの学生に回答してもらうべきでした。</p>
卒業研究 a	松尾 昇治	<p>前期では、研究テーマを決めて、書誌の探索やテーマの図書の発表や研究計画書の発表も行いました。いよいよ後期は仕上げになります。引き続き研究に励みましょう。</p>